

## 論 文 要 旨

博士課程 甲・㉞	第 <b>54</b> 号	氏 名	安部智大
<p>[論文題名]</p> <p>Potential benefit of physician-staffed helicopter emergency medical service for regional trauma care system activation: An observational study in rural Japan (地域外傷診療システムの活性化におけるドクターヘリの有効性に関する研究) Journal of Rural Medicine, accepted</p> <p>[要 旨]</p> <p>外傷患者においては、救急隊がその緊急度や傷病程度を病院前救護の段階で適切に把握することはしばしば困難である。その一方で、万が一不適切な病院選定が行われた場合は、患者の予後を脅かすこととなる。特に医療資源に乏しい、いわゆる医療過疎地域における不適切な病院選定は、直接患者の生命に関わる問題となりうる。重症外傷を含む重症患者の転帰改善におけるドクターヘリの有効性に関する報告は多いが、地域を見据えた外傷システム構築におけるドクターヘリの有効性について検討した報告はこれまで皆無である。今回、ドクターヘリの医療過疎地域における包括的外傷システム構築における有効性について検討した。</p> <p>対象は、宮崎県ドクターヘリが運航を開始した平成24年4月より現在まで扱った外傷症例とした。それらに対し、まずドクターヘリが外傷をあまり扱っていない医療施設(以下、非外傷センター)へ搬送した外傷患者数、そして外傷患者受け入れを行った非外傷センター施設数について調査を行った。次に、ドクターヘリによる病院前救急診療が、非外傷センターに安全に傷病者を搬送できているかについて、外傷センターに搬送した患者群と非外傷センターに搬送した患者群との間で比較することにより検討を行った。</p> <p>ドクターヘリで非外傷センターへ搬送された患者数も、受け入れを行った非外傷センター施設数も経年的に増加していた。非外傷センターに搬送された患者群の重症度は外傷センターに搬送された患者群と比べ重症度は低く、重症外傷や多発外傷の割合も少ないことが明らかになった。非外傷センターに運ばれた患者のうち、防ぎえた外傷死に該当する死亡はなかった。</p> <p>これらの結果より、ドクターヘリは、現場での診断と適切な病院選定を行い、地域医療施設に患者を搬送することで、患者の安全を脅かすことなく地域外傷システムを活性化する潜在的な有効性があることが示唆された。</p>			
備考 論文要旨は1,000字程度にまとめるものとする。			